



催眠アプリで
クラスメイトを
寝取りリハメ!

313W

基本CG8枚+α
本編157枚

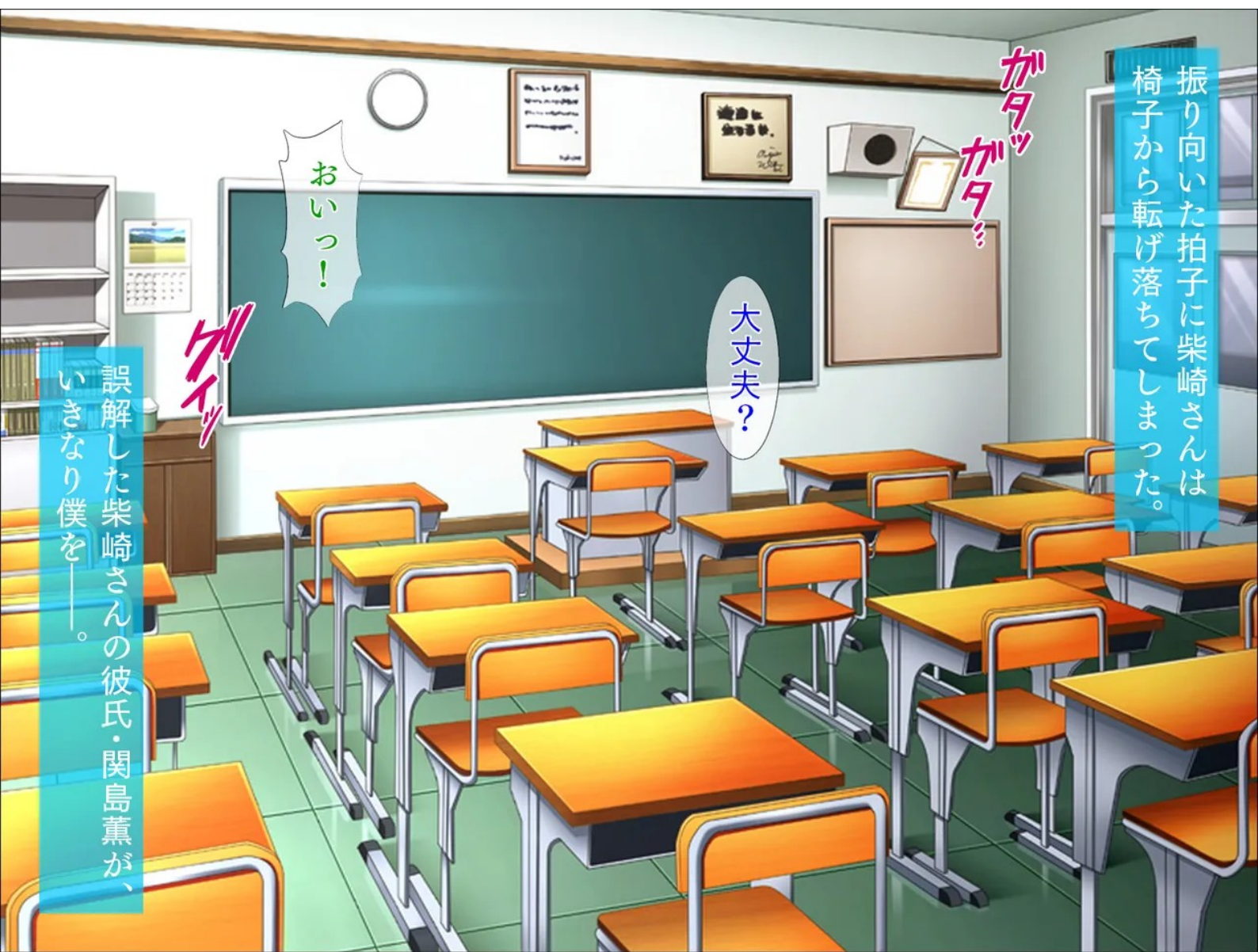
内向的な性格の僕・三沢孝太は、
周囲から雑用を押し付けられがち。

そんなある日、クラスメイトの
柴崎彩花さんに話しかけると……。

あの……柴崎さん

えっ？ ひゃっ！





振り向いた拍子に柴崎さんは
椅子から転げ落ちてしまった。

が
タッ
が
タッ

大丈夫？

おいっ！

グ
グ
グ

誤解した柴崎さんの彼氏・関島薫が、
いきなり僕を――。

——床へ叩きつけた。

ドサッ

なにいきなり人の彼女を
押し倒そうとしてんだ

そして、その日を境に、関島と
同級生によるイジメが始まった。

ガ
ン
ッ
!

ガ
ン
ッ
!



イジメが激しさを増す中、
ひよんなことから、催眠アプリを
入手した僕は復讐を計画する。

試してみようか、
一度くらいは……

ポ
ン
ポ
ン

正直なところ、九割九分以上は
効果を疑っている。

しかし、万が一にでもうまくいけば――。

催眠アプリを起動して初エッチ

翌日、柴崎さんの机の中に手紙を忍ばせ、
昼休みの屋上に呼び出した。

えっ……？
三沢くん？

あ、違う違う！
告白とかじゃなくて

柴崎さんは、あからさまに警戒している。



大事な話って何？

見せたいものがあるんだ、
関島くんについての……

関島の浮気の証拠画像を僕が握っている……
とでも思っているのだろう。



僕はアプリを起動すると、
スマホの画面を柴崎さんに突きつける。

えっ……？

ポイン

柴崎さんの表情が明らかに変わった。



柴崎さんはぼんやりとして、
目の前で手を振って見たが反応はない。

ぽーおー♡

まさか、本当に
効くとは……

す……

驚きが一段落すると、
にわかに欲望が湧き上がってくる。



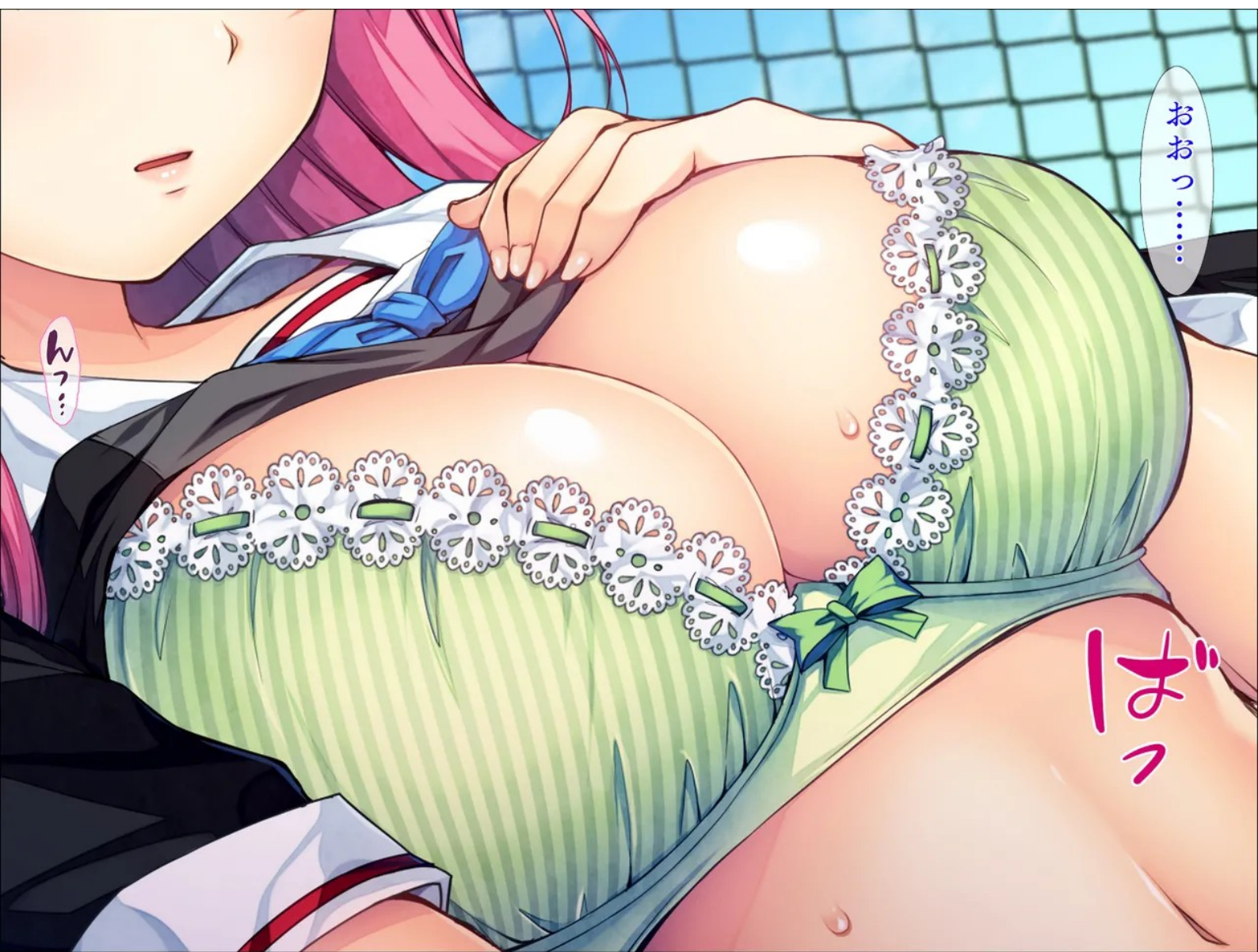
スマホに向けて命令を発する。

胸を見せて

.....

んんん





ん...

おおっ...

ぱっ

関島に見せるための
ブラジャーか……
それを思うと忘々しい

すっ……

だが、関島のためだけのブラジャーを
僕が盗み見ているのだ――。



ブラジャーを見る
だけじゃない、中身を
見るのだって……

ふるえる指先でブラジャーの
カップをつかみ、それをずり上げる。

もど…

もど…



ああ...

これが……
女の子の胸っ

ぽっ

ぽっ

この丸みを帯びたふくらみは、
どうしてこうも男を惹きつけるのか？



柴崎さんの
乳首っ……

はあ

はあっ

関島しか見たことがない
乳首を、僕も見てやった

それだけでも復讐心が満たされる。

中身を見たら、
触ることだって

はっ

はっ

緊張で指先をわななかせながらも、
ゆっくりと乳首に迫っていった。





あゝ

く

く

彼女は抵抗しようとしなない。



僕は、感動のあまりに
卒倒してしまいそうだ。



あっ……んっ
……うううう……

ぶる

に

に
に
に

に

に
に

ぶる…

もつと触っても
大丈夫かな……

思い切って乳首を摘んでみた。



催眠作用で意識は朦朧としてるが、
乳首への刺激を知覚しているようだ。



こんなことは、この先の人生で二度とないかもしれない。

今、僕は柴崎さんの乳首をしゃしゃっている！

寄



もっとしても、
大丈夫だよ

んあっ

あっ

ぎゅ

ぐり

ぐり

ぐり

ぎゅ

ぎゅ

うう...

手のひら全体で
乳房を鷲づかみにする。



ああ……

あ……

むにゅ

ぎゅ

むにゅ

はあ
やわらかい……
しかも大きい！

はあ

男としての本能的な部分を刺激され、
僕は高ぶりに高ぶっていた。



関島の知らないところで
奴の彼女としているのだ。



はあっ

最高だけどつ——
胸だけじゃ……
我慢できないっ！

はあ

はあ

むいっ

むいっ

ぎゅ

むいっ

むいっ

胸だけじゃなくて、
最後までっ！

さらなる命令を下すため、
柴崎さんの乳房から手を離れた。



はあっ
はあ
はあっ
四つん這いになって！
お尻を突き上げた感じで

うつろな顔をしたままの柴崎さんは、
のろのろとした動作で身をかめた。

柴崎さんは、僕の命令通りに
四つん這いとなっていた。

はっ
柴崎さんって、
こういう下着を
穿いているんだ
はっ

おちっ

ふっ

はっ

はっ

関島の奴とするつもり
だったのかな……？

はっ



もど

もど

は

は

下着の上からだけじゃなくて、
直に見ることだってできるんだ

激しく心臓を鼓動させながら、
同級生女子の下着に手をかける。



おちっ

ばっ

あぁ……
んっ……

はっ

これが、
柴崎さんの
あそこっ！

はっ





関島にしか見せたことが
ないであろうところ――。

ぐっ

くっ

んっ

んっ

んっ



アプリで命令すれば、
発情するのかな？

発情して！

スマホに向かって言葉を発すると――。

はぁ

はぁ

はぁ

ひ

ポーン
ポーン
ポーン



はぁっ

んああ……はああ、
んっ……ああ……

あそこが……なんだか、
あっ……んっ……んううう

はぁっ

はぁっ

効果はすぐに現れた――。



発情はさせられたけど、
それだけじゃおもしろくない

僕を関島だと
思い込め！

僕は彼女の恋人として、
セックスすることにした。

柴崎さんは意識を取り戻したようだ。



わたし、どうして
こんなところに？

えっ……？
きゃっ……？

僕は、関島になりきって喋った。

ここでしたい！
ゴムはないけれど、
かまわないよね

嬉しい！
薫がその気にな
ってくれて

今まで、キスとか
触るくらいしかして
くれなかったでしょ





柴崎さんって、
まだ処女なのっ？

はぁっ

はぁっ

はぁっ

んっ

んっ

んっ

あああ、屋上でっっていうのは
恥ずかしいけれど……嬉しい

はぁっ

はぁっ

私、初めてだから
……やさしくしてね

んっ





柴崎さんの膣穴からは、
赤いものが流れ出ていた。

んあっ
おおおお

ぬぽっ

めり
ズキ
ぬぽっ

ぬぽっ

したんだっ！
僕は、女の子と
したんだっ！

はぁっ

はぁっ

ズキ



牡の欲望にまかせて
僕は腰をつかい続けている。

めり
ぬぷっ

ぬぷっ

ぬぷっ

ごめん、我慢できないんだ！
彩花のあそこが気持ちよくって

あっ

んあああ……あああ
私も、薫の感じられて
……嬉しいの

はっ

いっ



なんだか……あそこが、
よくなってきたみたい

初めてなのに、
もう感じているの？

薫にしてもらったから、
気持ちよくなったの

はっ

いっ

あっ



初めてなのに……
いっちゃいそうなのっ!

薫にしてもらって……
わたし……いきそうなのっ

ぬぶっ

ぬぶっ

ぬぶっ

ぬっ

ぬっ

ぬっ

ぬっ

あ

は

僕もいきそうなんだっ！
中に出していいっ？

ぐっ

ぬぶっ

にゅ

ぬぶっ

んっ

薫の、私の中に出してっ！
いつ薫としてもいいようにって、
ピルを飲んでるからっ

あっ

んあああ……はああ！
いくっ……いっちやうっ

はっ







んんっ……んはああ……
薫のが、私のあそこにつ

想像していたよりも、
ずっと気持ちいい……

関島への妬みが深い分だけ、
今の状況に優越感を覚えていた。



柴崎さんは、僕のもので
処女喪失したんだよ

射精の快楽に酔いしれるとともに、
僕は催眠アプリの威力に感じ入っていた。

はー♡

ぬちゃ...

ぬちゃ...

ドロオッ♡

ぬちゃ...

ドロオッ

おっ

こんなことまで
できるなんて、
すごいアプリだ

んっ...

おっ

薫.....もう

1回しよっ!

ふっ♡





うれしい……薫にしてもらって。

薫とこうしていられて、幸せ♡

また明日も……してほしいな♪

催眠アプリで彩花の自室に侵入

放課後、彼氏と腕を絡め
歩いている彩花を見かけた。

ふふっ

いい気なもんだ

そのあざけりは、関島に向けてのものだ。



彩花の処女を僕が
いただいたとも知らずに

よし、よし、よしとぞ
思いついた……

関島と別れ帰宅する彩花を追うと、
僕は催眠アプリを起動させた――。

ピッ
ピッ

ポ
ン





セリ

ひゃっ!

ぱっ

何かがお尻に触った感じがします。
反射的に振り返っても……何もいません。

帰宅した私は、制服を脱ぎました。
そして、下着だけになった時――。

私は、ベッドでうつぶせになり、
スマホをいじっていました。

本当に気づいて
ないみたいだね

あれ……？

何か聞こえた
みたいだけど？

んっ…

ピッ

ピッ

ゴモ…
ゴモ…



おそらくは気のせいでしょう。

ドゥ
ドゥ
ドゥ

んっ…

プーン…

気づいていないなら、
このまま……





あそこがずきずきし始めました。
何か、押し広げられるような感覚——。





やっぱり、女の子の
あそこは最高っ！

わたし、どう……
しちやったのかな？

ぬぶっ

ぬぶっ

ぐちゃ

んっ

あああっ

少しだけ不安がよぎります。

はっ

とその時、メッセージアプリに
薫からの着信がありました。

あ

ピン

今日、ちよつと様子が
変だったけど、大丈夫？

は

ぬ
ぽ

ぬ
ぽ

ぬ
ぽ

ぬ
ぽ

ん

薫に気づかわれて、つい笑みがこぼれてしまいます。

えへへ……心配されちゃった

頬が熱くなりました。心なしか、全身も火照っているような気がします。



それから、親密なやり取りを
続けていると――。

あああ、わたしも……
んあ……だいすき……よ

大好きだよ

ひとり言とともに
メッセージを打ち込みました。

ぬぷっ
ぬぷっ

ぬぷっ

ぽん

ピッ

ピッ



文字を打ち込んでみると、
息が途切れ途切れになってしまいます。

わ、たし、もっ……
だいっ、すきっ、だよっ

そろそろ、
出そうだ！

はっ

はっ

ぐちゃ

ぬぷっ

ぬぷっ

いっ

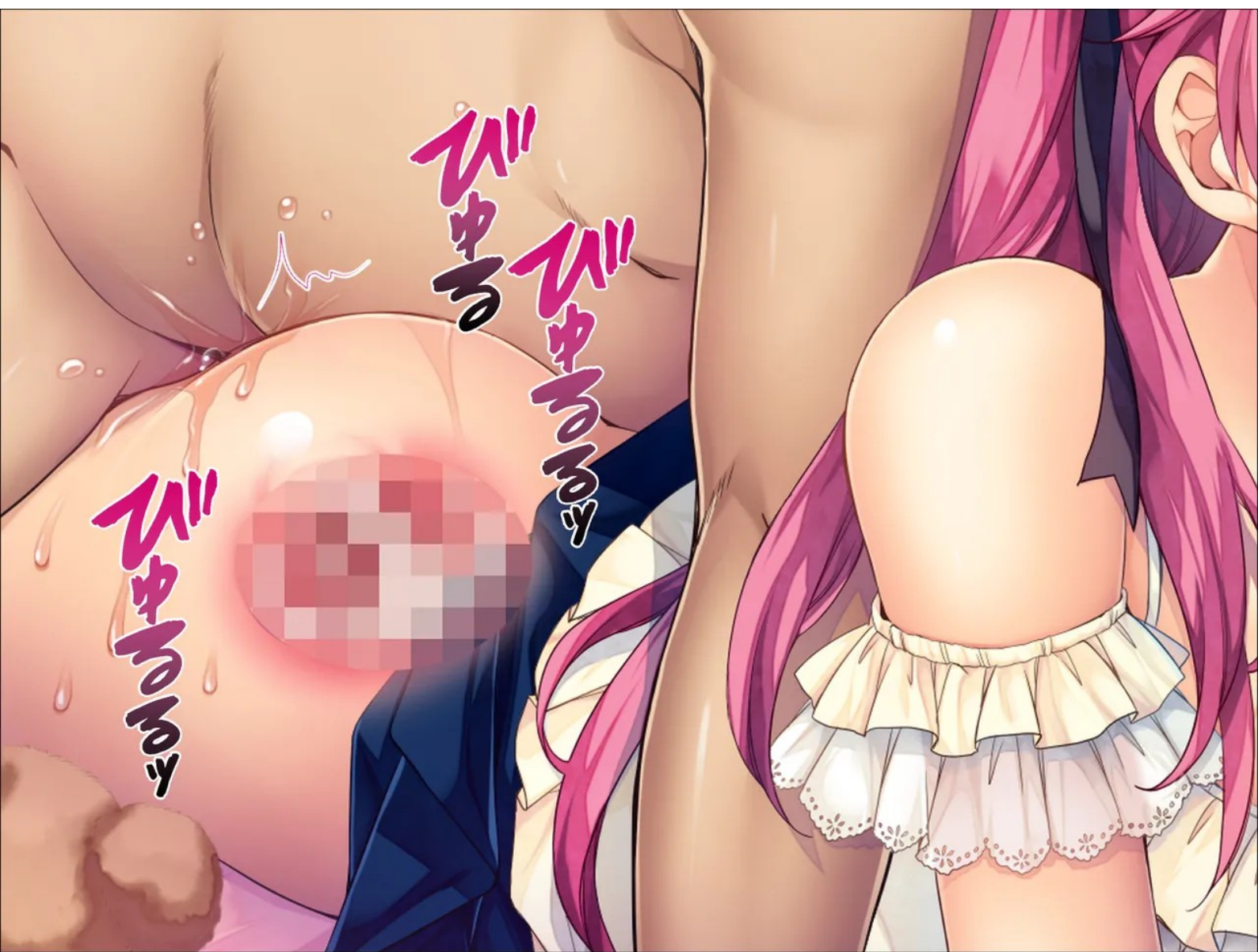
いっ

ピッ
ピッ
ピッ

ピッ

ピッ





送信のボタンを押した瞬間、
私の身体は小刻みに引きつりました。

はああ……ううっ
……んうう……

びくびくとなったのです。

びくびく……



ふふふ……薫からのメッセージに
胸が熱くなっちゃった。

たまには、体調が
悪くなるのもいいかも……。

満ち足りた気分で
私はベッドに突っ伏しました。



ファミレスで淫らな愛撫

彩花と関島のデートを尾行し、ファミレスへとやってきた。

こっちの席にこい、
店の奥の席だ

お客も店員も極端に少ないことを
確認した僕は、アプリを起動し――。

ピン



ぽおー♡

あれ？ わたし……
何をしていたのかしら？

確か……薫とファミレスに
来ていたんだっけ……

彩花……
大丈夫か？

薫とファミレスに来たのは
間違いないようです。しかし――。



私の隣には、なぜか三沢くんが座っていたのです。

えっ……？

しかも、三沢くんの手が私の股間を触っています。

ん？

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん



あの子……どうして
そいつを呼んだの？

だって……
仲直りしないと

三沢くん悪い人じゃないのに、
今の状況はかわいそうでしょ

思ってもみない言葉が、
私の唇から出ています。

んっ…

くしゃ

くしゃ

くしゃ



やめなさいよ、
……この変態っ

心の中では三沢くん
に罵声をあげています。

Soup

LUNCH
&
DINNER

2017 AUTUMN

はっ

ふっ

ふっ

しかし、私の肉体は
何の抵抗もしていません——。

あぁ……そんなところ
触らないで……あひいっ

お願い、薫
……助けて

ちよつと飲み物
取ってくるよ

彼は、席を立ててドリンクバーへ。





でも、いいの？
大好きな彼氏の前だよ

ねえ、もっと
強くさわって

そんな触り方だと、
……いけないから

いいの、その方が
興奮するから……

はっ

あ

ふん

ふん

ふん

ふん

私は耳を疑いました……
自分からおねだりしているのです。

はっ
あ
本当にいいんだね？

うん……そのために
隣へ座ってもらったから

私が？ 自分から誘ったの？
嘘よっ、そんなの絶対に嘘よっ







おかえりなさい、薫

薫が帰ってくるのを待っていたかのように、
愛撫が激しくなりました――。

ああ……



三沢くんは、蕾の包皮を剥くようにして、直にこすってきたのです——。

どうした、彩花？
……大丈夫か？

んっ…
うう…

うん……平気

にゅ
にゅ





薫に気づいて
欲しいんだけど、
聞かれたくない

私、どうすればいいの？
あああ……はああん

Soup
LUNCH
&
DINNER
2017 AUTUMN

はっ

あ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

私が高ぶっているのを察知したのか、
三沢くんの指は淫猥さでくねりだしました。

んあっ
んうう

どうした、彩花っ？
具合が悪いのか？



んはあ

あ

……ひさしぶりの
デートだから、ちよっと、
胸がどきどきしちやって





私の肉体は高ぶってゆく一方でした。

感じちゃいけない
いけないのに……

はああ……んああ
いいっ、気持ちいい

あ

ん

ほ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ



あ

ん？ 行ってくて、
……どこに？

あつ、もうっ、だめっ！
わたし……いきそう

薫の前でいつちやう
なんて、絶対にだめ

あ

くっく

くっく

くっく

くっく





私は、彼氏ではない男子に悪戯をされて、
性的絶頂に達したのです。

いへ……いっちょやう……
んあああああああああつ！



はあ

んっ……

びく

それも、彼氏が見ている前で。

びく……

はあ

びく

アハハハ
アハハハ

アハハハ



おい……彩花っ
どうした？

はい

はい

はい

はい

わたし……
いっちゃった

んっ

ぬちゃ……

ぬちゃ……

くっ

くっ

くっ

くっ



この期におよんでも、
薫は私の異変に気づいてくれません。

それがよいことなのか、
悪いことなのか――。

私にはわかりません。

映画館の座席でセックス

デート中の彩花を尾行し、映画館へ。
僕は、中座した彩花に話しかける。

三沢くん!? まさか、
後をつけていたの?

せっかくだから
一緒に観ようよ



特等席があるからとでもいうように、
僕自身の膝をぽんぽんと叩く。

そんなところに
座るわけないでしょ

ぽんぽん

ドン引き顔を楽しんだところで、
僕はアプリを起動する――。



気がつければ私は、三沢くんの膝上に座っていました。

んんっ……
んんーっ？

他にも人がいるから、
しゃべれなくしたんだ

しかも、股間にはおぞましいものが、打ち込まれているのです。

私は、ふとあることに気づきました。

痛く……ない？
そんな……まさか

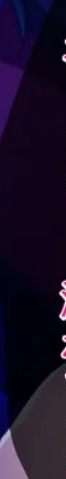
まさか……わたしの初めて、
三沢くんに奪われていたの？

!?

そういえば柴崎さん、
トイレに行くんじゃない？

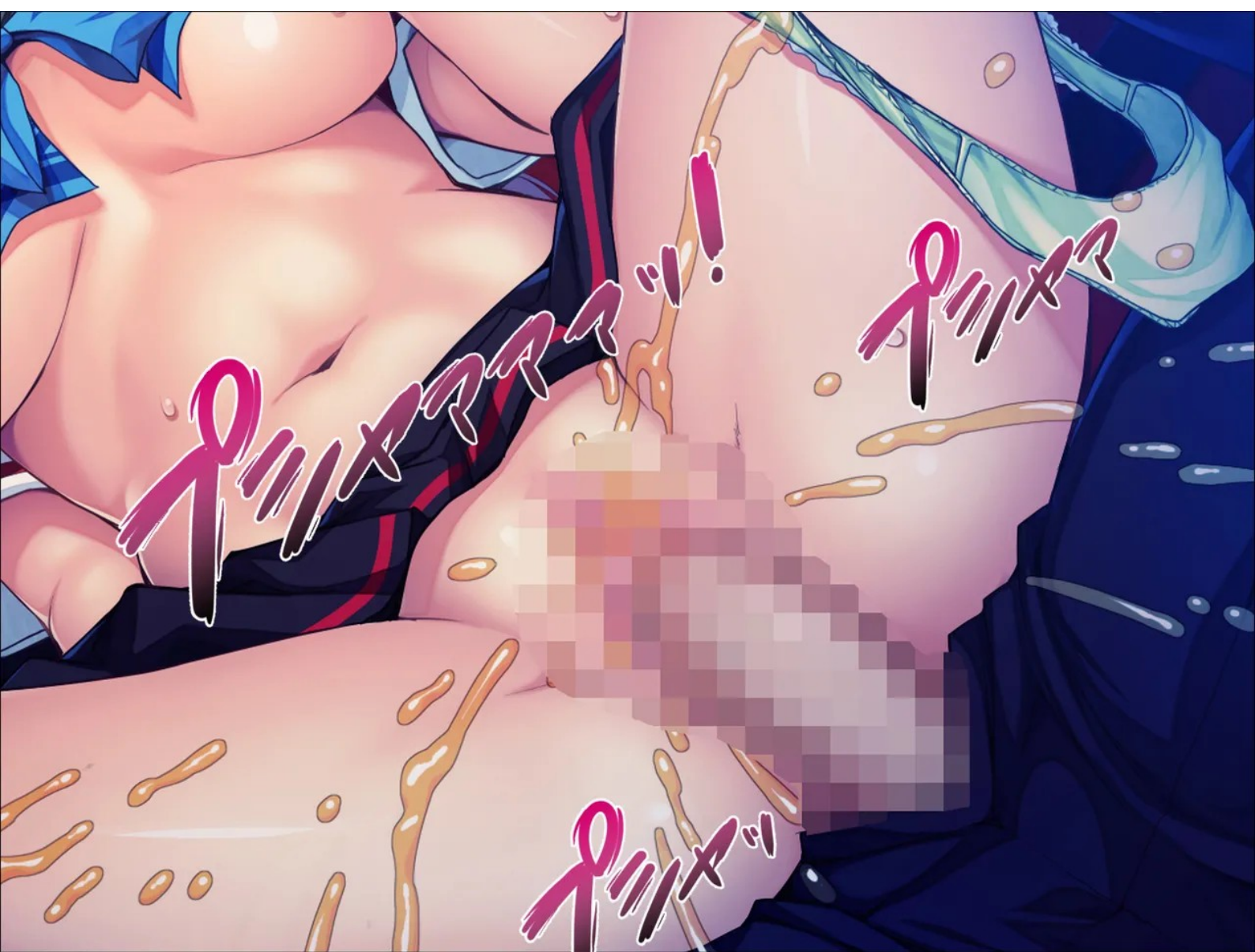


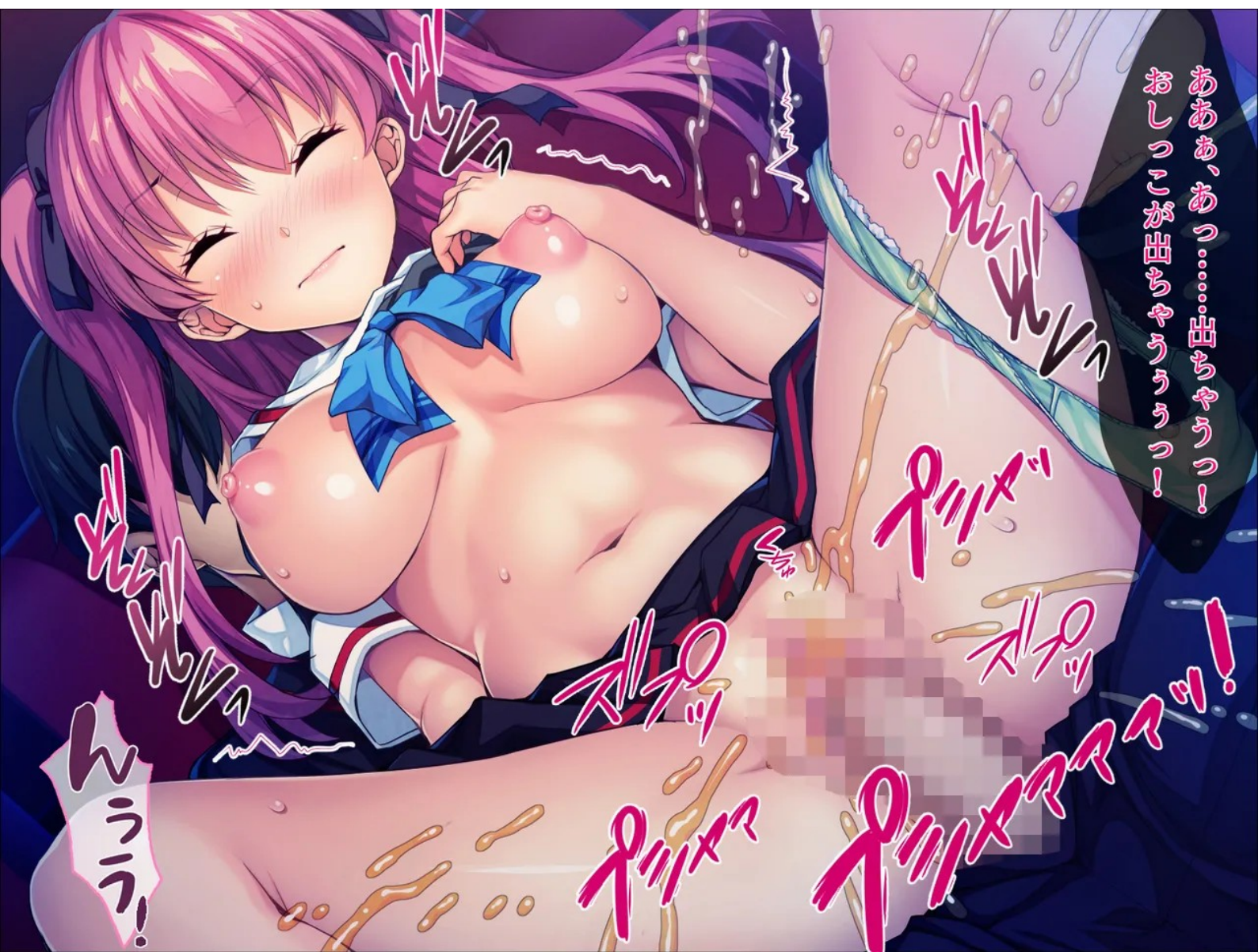
三沢くんには指摘され、突然尿意が私を責めさいなできました。



はあああ、あああ……んっ
おしっこ……漏れちゃう



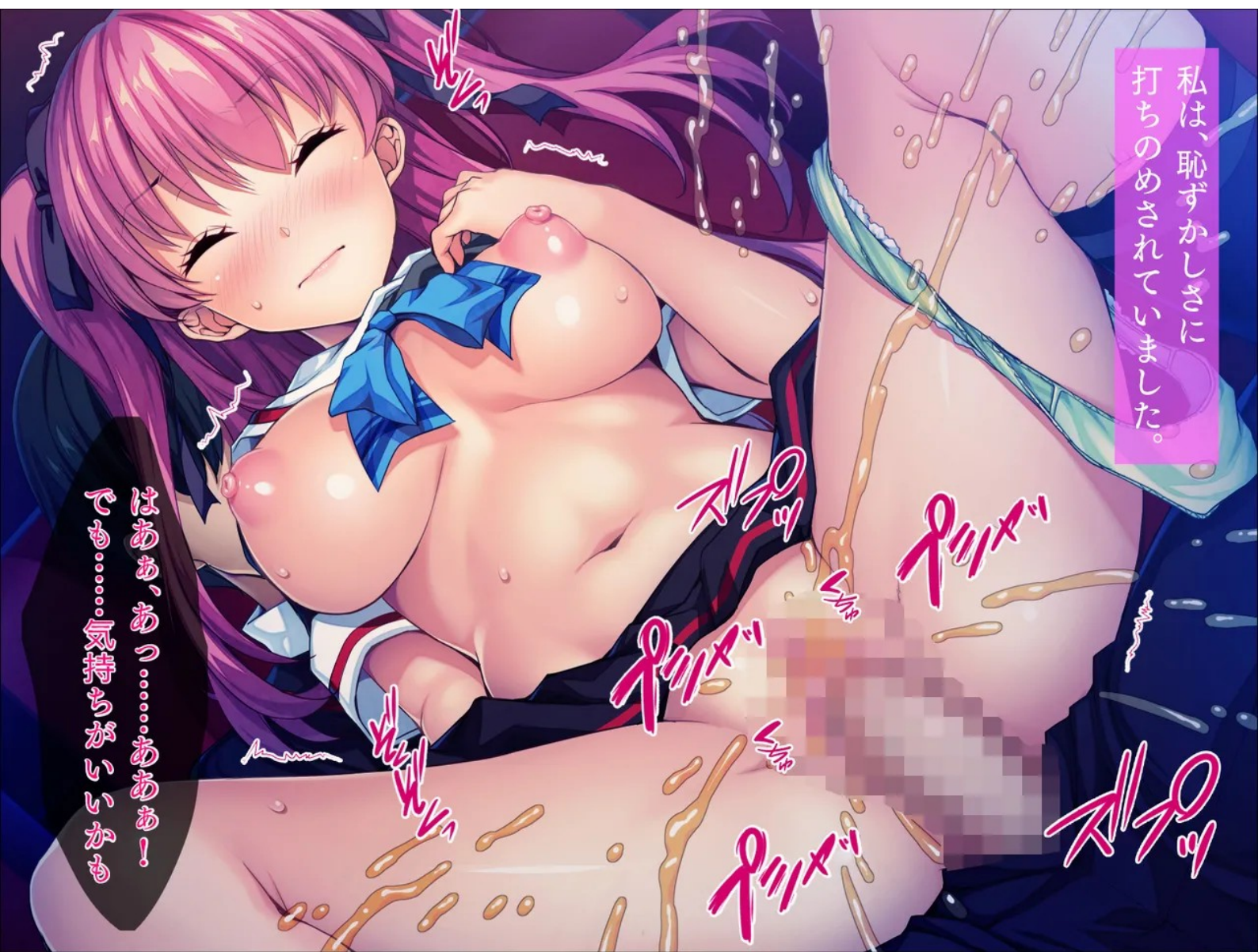




ああ、あー……出ちゃうっ！
おしっこが出ちゃううっ！

私は、恥ずかしさに
打ちのめされていました。

はあぁ、あー……あああー！
でも……気持ちがいいかも



女の子のおしっこを
生で見るのは初めて

私の放尿姿で欲望を煽ってしまい、
やり切れない気分です。



三沢くんの腰づかいが、さらに加速しました。

んはああ、んああ！
いいっ……あそこがっ



三沢くんなんかで
感じるはずないのにつ
あっ……はああんっ！

あそこの蕾も膨張しきっていました。





クリトリスを、気持ちよくなるように触るんだ

んっ、んんんんうう
……んんんっ？

私の意思に反して、
手がひとりでに動き始めます。

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

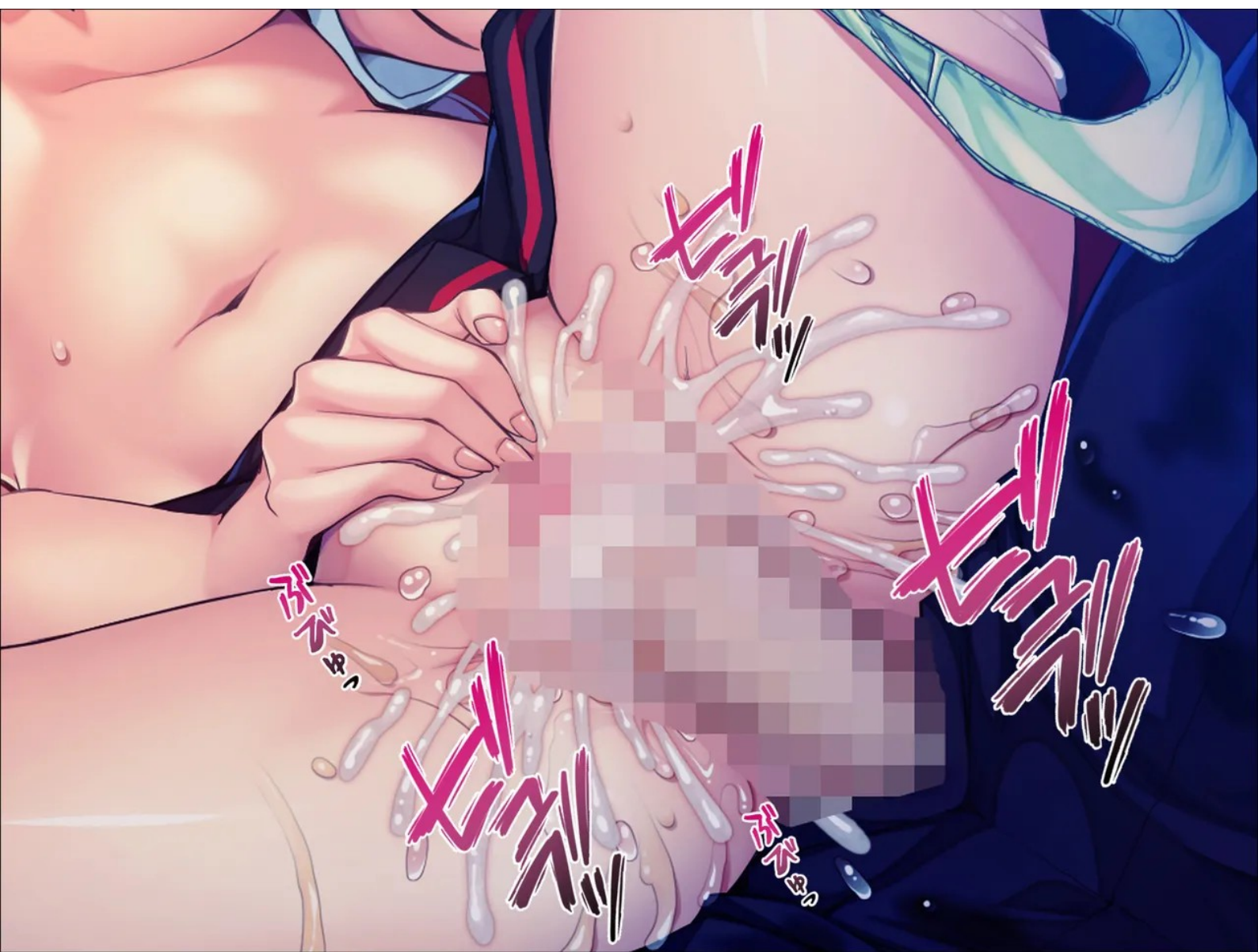
何なの？
どうして……
手が勝手に

好きでもない男子を前にして
自慰の指づかいを披露してるのです。











んあああつ！ いくつ……あああ、
んはあああああああああつ！

ゴゴッ

ゴゴッ！

ぶっ
ぶっ

ゴッ
ゴッ
ゴッ

ゴゴッ

ゴッ
ゴッ
ゴッ

私の膣奥深くで熱いものが
広がってゆきます。

びくびく

びくびく

びくびく...

びくびく

あああああ.....
あああ.....



やめて……あそこの中で
出すのだけは……んああ、はああ。

心の中での声は、
三沢くんが届きません。

たとえ届いたとしても、
止めてくれるとは思えませんが……。



海デート中に彼氏の目の前で潮吹き

事前に彩花のデート情報を握った僕は、
関島に暗示をかけデートに乱入した。

どういふことっ？

彼女とエッチをする時には、
男友達のものを使うのが当然だろ



三沢くん、まさか
薫にも催眠を？

動くな！

ヒッポ

うう...

セリフ

その場から逃げようとした彩花を、
僕は催眠アプリで動きを封じた。





あれ……？
嬉しくないの？

すぐ目の前に薫がいるのに、
三沢くんは背後から抱きついてきました。

ひっ、あああ、やめて
……薫の前でこんなこと



嬉しいわけないでしょ……
薫の前でこんなことをされて

もみゅ

もみゅ

僕は、関島くんに頼まれて
こうしているんだけど？

やっ

それは三沢くんが……
んうう、んっ……んああ

もみゅ

もみゅ

もみゅ

やっ

やっ



私の身体に甘い電流が走りました。

僕とのエッチを、
関島とだと思って

だったら……
こうすればどう？

ポッ

もみゅ
もみゅ

やっ

ぶゅ

やっ

やっ

ぐゅ

ぐゅ

ぐゅ

ぶゅ



催眠にかけられた影響で、私の身体は勝手なおねだりをしています。

うん、嬉しい！
だって、ずっとこうして
欲しかったから

どう？
嬉しいだろ？

もみゅ

むいゅ

ふゅ

あ

は

ん

ぐゅ

ぐゅ

ぐゅ



三沢くんの指づかいが、
さらにいやらしくなります。

うん……
それじゃあ

もっとして！
もっと強く触って

あ

い

い

い

は

も

む



はっ

むいっ

もみっ

水着の上からも、
気持ちいいっ……

あっ

んん

んん

んん

なあ、三沢、
直に触ってやって
くれないか？

薫のために買った水着が、
薫の手でずらされます——。



口では、甘く恥らっていますが、
心の中の私は恥辱に泣いていました。

こんなのいやっ……
いやあああああつ！

あっ

ばっ

おっ

んっ

ああん、恥ずかしいよ！
こんなところで……

ばっ

んっ

んっ

んっ

はっ



そこは、そこは許して！
感じすぎちゃう……

薫に見られているのに、
気持ちよくなっちゃう……

むにゅ

ぐゅ

ぐゅ

ぐゅ

ぐゅ

あ

あ

あ



三沢くんの手つきは、ますます
淫らで執拗なものになりました。

ああ、頼むよ

あ

あ

ぐちゃ
ぐちゃ
ぐちゃ
ぐちゃ

あー
むいっ

あそこから愛液が
あふれちゃってるね
入れる前に、一回
いかせておこうか？

あ



薫に見られて……
興奮しちゃってるの

彼氏である薫の視線が、
淫情をさらに激しくしています。

もみゅ
むにゅ

いっっちゃうっ!
いきそうなのっ



ああ、んっ、
……あんっ！

薫に申し訳ないのに、
申し訳ないんだけど……

もみ
もみ

もみ
もみ
もみ
もみ

あ

あ

あ



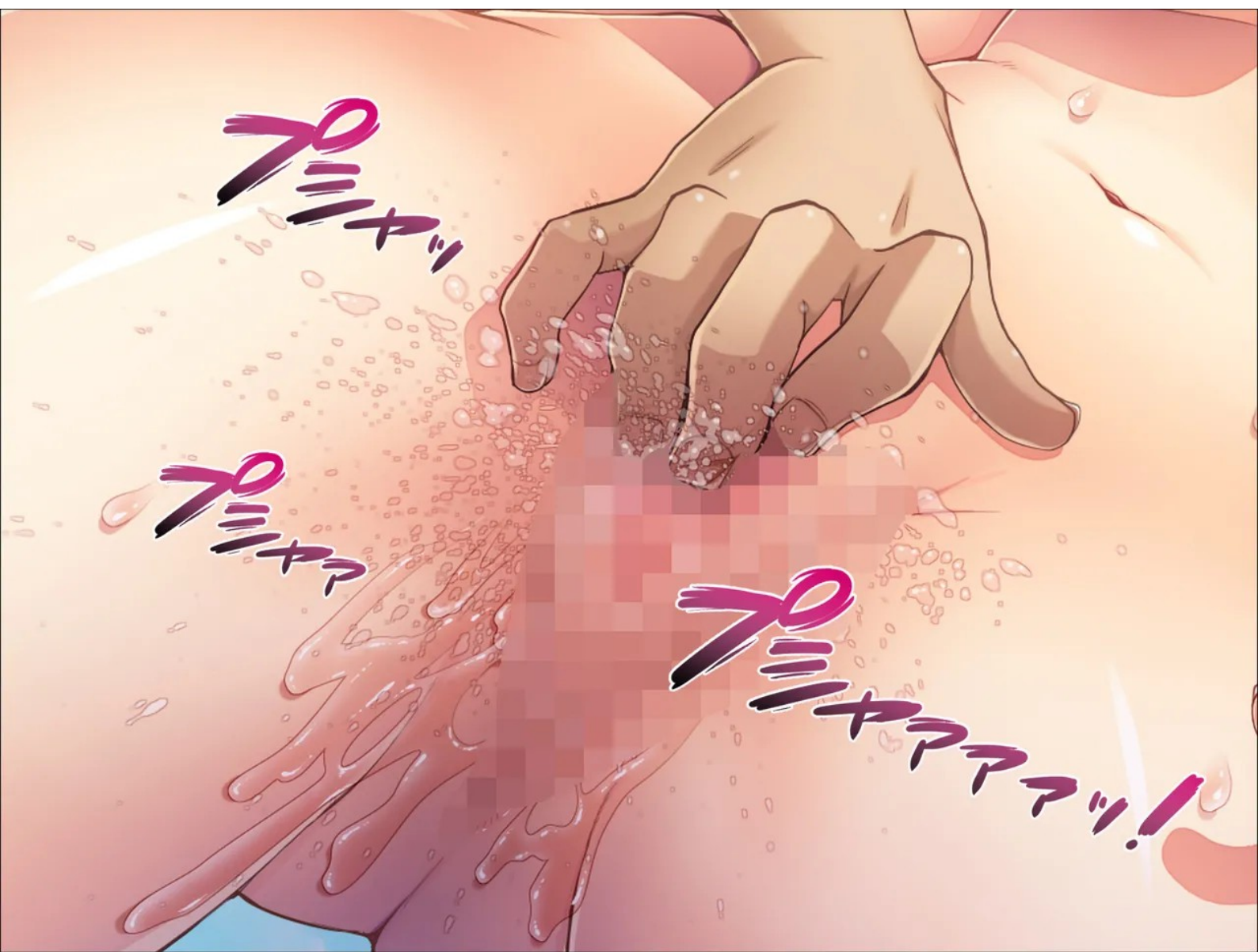
薫の前なのに、
いっちゃうっ！

三沢くん……
いかされちゃうっ

もみもみ

我慢することなんてないのに、
彼氏の前でいっちゃいなよ

とどめとばかりに、陰核を摘み上げられました。







おしっこの穴が細かにひくつき、
無色透明の液体を噴き出していました。

はああ、あつ、あああ！
出ちゃってる、出ちゃっているの

ああ、んっ、はあああ
……わたし……イチやった

おあい

おあい

ぐいっ…

グミッ

グミッ

ぐいっ…

おあい

彼氏を前にして、他の男子の愛撫で
いかされてしまったのです。

おあい





わたし、いかされちゃった
薫の前で、三沢さんに……

肉体的な快楽に溺れつつも、
心では恥辱に泣いていたのです。

んっ...

どうだった、彩花？
気持ちよかった？

うん、とっても気持ちよかった、
薫に見てもらっていたから

はっ

はっ

はっ

せー

そろそろ
しょうか

薫の前で潮を噴かされただけでなく、
私は犯されようとしているのです。

ぬ...
ん...
ぬ...
ん...
ぬ...
ん...
ぬ...
ん...

私の身体は、前かがみになって
薫の腰にしがみついていた。

……早くう
わたし、もう
たまらないの

三沢、頼むぞ



催眠の影響下にある私は、彼氏ではなく、
三沢くんにおねだりしているのです。

まかせといてよ！

びんっ

あああ、来て
……ちようだい



きて……
私の初めて、
もらって

びんっ
びん

グイッ

初めてね……くくくつ
関島くんのために、
僕のものを入れるから

三沢くんはくすぐすと笑いながら、
私のあそこに押し入ってきます。

くさっ



あああ、薫のあれが
入ってきている……

いやあああああつ……
いやつ、やめてえええつ！

あ

あ

あ

あ

心の中の私は、血を吐くような
悲鳴を上げていました。

は



違うのっ……私、こんなのにゃなのっ、いやなのにつ

あんっ……いい！
あそこが気持ちいいのっ

薫の腰にしがみつきながら、
私はふしだらな啼き声を放っていました。

んっ

ズン

あ

ズン

ズン

ズンズン

僕も気持ちいいよ！

感じちゃいけないけど
……んはあ、ああん

素に戻っていいよ、
身体はそのままです

そして何を思ったのか、三沢くんは、
催眠の一部を解除したのです。



三沢くんっ！
絶対に許さないっ！
一生恨むからっ！

ほ？
彩花、どう
したんだ？

私の剣幕に驚いたのは、むしろ薫の方です。





私の中心部をえぐりまわしながら、
三沢くんはまた命令するのです。

関島としている
と思って喜んで

ズンッ!

ズンッ!

ズンッ!

その命令が、催眠となって
私を縛りつけます――。





いい……
とつてもお
ああんっ♡

ズンッ！

ズンッ！

ズンッ！

ぐるん

ほー

ほ？

あ

許さない……

絶対に許さない！

心の中で恨み言を唱えることで、
私は何とか意識を保っていました。



私、三沢くんのもので
薫とエッチができて幸せ





快樂のあまりに脚がわなないて、
立っているのがやっとです。

あつ……
ひいひいー！

ズン!!

すごいっ……
そんなに激しくっ！

ズン!!

あ

あ

あ



あ

ここも
いじって
あげよう

そこをいじられ
ながらされると……

は

すぐにいつちゃうの……
いかされちゃうのっ！

ん



くっ……
出そうだ

わたしのあそこに……
三沢くんの精液を出してっ

わたしも、もう
いきそうなのっ!

いやっ……絶対にだめええっ!
中で出すのもっ、いっちゃうのもっ

はっ

あっ







いやあああつ！
薫が見ているのわっ
……中だっ！

三沢くんの精液がっ
あそこの奥につ……



子宮は精液で満たされ、
私の心は白濁に染め上げられます。

ひびひびっ
……じゃああああ

びびっ

びびっ
びびっ

びびっ
びびっ
びびっ

びびっ

びびっ

あそこの中に
……精液があ



三沢のもの、
気持ちよかったか？

気持ちよかった
とっても幸せ……

これからは、
いっぱいエッチしような

おっ

ぬちゃ……

どろ

トロトロ

ぬちゃ……

トロトロ

ぬちゃ……

おっ

おっ

んっ……

おっ

おっ



うんうん……
僕もお手伝いするよ

いっばいいっぱい、
エッチしようね……
三沢くんのもので

ぬちゃ……

ぬちゃ……

ぬちゃ……

ぬちゃ……

ぐろ……

ぐろおっ

ぐろおっ

んっ……

おっ

おっ

おっ

おっ

許さない……絶対に許さない……。

奈落の底で誓います。

どんなことをしても復讐してやると、
誓ったのです。

絶対に許さないんだから……。



放課後の教室で僕らは
エッチにふけている。

そして、放課後の教室で僕らは!?

はあああ……あああ
いい……気持ちいいっ

7.0
7.4



くちゅ

あ

11/20/14

は

41



んあああ……いいっ！
あそこがいいの……

三沢くんの
かきまわされて

具合がいいよ、
彩花のあそこ

今や僕は、好きな時に好きなだけ
彩花を楽しめる身分になったのだ。



すでに何の指示も出しておらず、腰ふりも言葉づかいも彩花自身のものだ。

しょうがないな、出してあげるよ

ねえ、出して！
三沢くんの精液……
私のおそこに頂戴





あああ……んっ!
んはああああああ!



彩花は陶酔の表情を浮かべている。

あああ……
三沢くんのが、
あそこの奥に



ねえ、気持ちよかった？

うん、気持ちよかったよ

あのアプリ、もう消しちゃってもいいんじゃない？

必要ないでしょ♥

はぁい

はぁい

はぁい

ぬるぬる

ぐわん

ぬるぬる

ぬるぬる

どろどろ



んっ...

なんだか、身体に
違和感があるの

おっ

おっ

ビョロッ

ぬ...ぬ

ビョロッ

ぬ...ぬ

この違和感がなかったら、
もっと腰を使えるようになって、
気持ちよくしてあげられそう



ただでさえ気持ちいいのに、
もっと気持ちよくなれるのか

……ほら、
消したよ

僕はスマホの画面を見せて、
アプリ削除を確認させる。

あきみ

あきみ

ピッ

ピッ



突然、関島と取り巻きたちが
教室へ入ってきて――。

覚悟はできて
いるんだろうな？

そう……
消したのね

三沢くんも……
一緒に消えるのよ

ガッ
グッ

ぬ
ぬ……



僕の意識はそこで途絶えた——。

えっ……？

言ったでしょ、
絶対に許さないって

ガッツ

～おしまい～